

# Nippon ビジネス戦記

サンジーヴ・スィンハ



## 日本には日本のリーダーシップ

ロンドン五輪では日本のチームワークが素晴らしかった。なでしこジャパン、卓球の団体、水泳や陸上のリレーなどチーム競技はもちろん、個人競技もチームワークがよかった。亡き恩師への思いからメダルを手にするなど、選手たちは応援団や選手仲間、関係者にも支えられていた。個人選手も様々な関係者を含めたシステムの中でチームとして動いていた。

日本では1人の成果や実績よりも、その人がチームのメンバーとして、また、社会の一員としてどのように貢献したかを重視する傾向がある。その環境の中で各自が同じ価値観を持ち、自分のことよりもチームの一員であることを優先し、その相乗効果でチームワークがますます強くなる。

一方、個人的に目立つのが苦手なことで、卓越した人材が育ちにくいことから、日本はリーダーシップが

欠如しているとよくいわれる。

しかし、日本ではスポーツでも仕事でも、違う形のリーダーシップがある。「裏方」とか「先輩」とか「恩師」という存在が大勢に影響を与えることがある。日本の場合はカリスマ性より、親しみを持って尊敬されることがリーダーシップの元にある。前からリードする西欧のリーダーとは違い、日本には下から支えるか、上から見守るリーダーシップがある。

変化や自己宣伝が激しいグローバル時代にはある程度、前からの目立つリーダーシップも必要だ。ただし、世界の国々と比べ貧富の差が小さく、効率的な経済計画で成長したのも、日本独特のリーダーシップが背景にあると思う。そのバランスをどう取るかが、日本の成長のカギを握る。

(サン・アンド・サンズ アドバイザーズ社長)